

# 入学者のことば

## 入学者のことば

歯学科1年 藤井孝仁



みなさんこんにちは。もう入学してから4ヶ月も経ってしまい、必死に受験勉強をしていた日々が遠い昔のように感じられます。新潟大学前駅からの道のりはいつまでたっても遠いと

感じますが、大学にはだいぶ慣れてきました。

さて、入学者のことばということでお話をいただいて、入学してから今までを振り返ってみると仲間に支えられてやってきたことを実感します。私は長野県出身で、ほとんど初めての新潟。地元友達がいるわけでもなく、みんなとうまくやっていけるのかがまず目下の心配事でした。しかし、そんな不安は全く必要ありませんでした。歯学部のメンバーは皆話やすく、面白い人ばかり。私が、歯学部のガイダンスの昼食時に乾杯の音頭を取ったことなどもあって、すぐに溶け込むことができました。歯学部全体でもたった61人という高校のような少人数の学部だからこそ、繋がりやすさが求められてくると思いますが、私たちは出会って数ヶ月ながら、なかなかのつながりの良さを発揮していると思います。それは歯学部運動会でも感じました。運動会ではクラスTシャツを作るのですが、その発注が間に合わなくなりそうになる事件が起きました。そんな時、宅急便の配送センターまでTシャツを取りに行ってくれる人がいました。運動会後の食事会も遅れた僕に代わって仕切って進めてくれている人がいました。

私は幹事なので本来私がやるべき仕事ではあったのですが、至らない部分を友達が補ってくれたのです。本当に頼りになる友達ですし、本当に感謝しています。これから6年間という長い生活が続いていきますが、その中で関係を今まで以上に強固なものにしていき、充実した学生生活にしていきたいと思います。

そして外せないのは早期臨床実習の話です。もう病院内に出る実習は終わり、オールデンタルにも備える人が増えてくるまでになってしまいました。早期臨床実習では、病院見学、患者付き添い、患者役の三つの班に分かれました。病院見学では実際の治療現場を間近でみることができ、さらにはいくつかの材料も触らせてもらいました。これは良い経験になっただけでなく、歯科医師になるのだというモチベーションにもなりました。患者付き添いと患者役の実習では、患者さんの立場に立つことでその苦勞を感じることができました。待合室で待つのも、治療も長時間かかる患者さんもいて、とても大変だと思いました。歯科医師の立場からすれば待っている時間など、なかなか考えの回らない点だと思うので、細かい部分も患者さんを思いやる気持ちが必要になってくると感じました。これは、実際に治療をするようになってから生きていくことだと思います。

この原稿を書いているのは7月18日。26日にはこの早期臨床実習のまとめ発表があります。ここでもまた班のメンバーと協力することが必要になります。でもきっと持ち前のつながりの強さを生かせれば、良い発表になるでしょう。このつながりの良さをまめに、これからの6年間。口腔生命福祉学科のみんなとは4年間。思いっきり遊んで学んで楽しんでいきましょう！

## 入学者のことば

### 歯学科1年 須田 遥香



新潟大学に入学してから、早いもので3ヶ月以上が過ぎました。初めは、新たな場所での新たな仲間たちとの生活に、期待の反面不安を感じていた人も多いと思いますが、そんな不安は気づけば楽しみに置き換わり、今では毎日とても充実した日々を過ごしています。

入学を機に親元を離れ一人暮らしを始めた者、今までと変わらずに親のいる実家から通う者がほとんどですが、私は入学後、親と離れて、祖父母との生活が始まりました。自分で自分の身の回りのこと全てをやらなければならない子が多い中、私には、温かくてバランスの良い美味しい食事が朝晩出てきます。今までの生活とは全然違う、大学生の生活リズムに合わせてくれている祖父母にはとても感謝しています。祖父母との今の暮らしは、両親や姉と暮らす今までとはまた違い、日々発見があります。しばらくしたら一人暮らしを始めるので、それまでこの生活を満喫しようと思います。

さて、1年生の間は、教養を学ぶため、医療系以外の他の多くの学部生徒と同じ、五十嵐キャンパスで授業を受けます。五十嵐キャンパスには学食があり、昼食時には多くの学生が利用するため、大変賑わいます。期間限定での商品も多いため、どれにしようかと悩むのも五十嵐でしか味わうことのできない楽しみの一つです。時には、友人と大学周辺の飲食店に行ってみることもあります。注目しているお店がまだいくつかあるので、この1年で制覇したいと思っています。

また、ほとんどの歯学科の1年生は、旭町キャンパスが活動拠点である歯学部、もしくは医歯学合同の部活動に所属し、活動しています。部活動は、先輩方はもちろん、部活に属していなければ接点がなかったはずの医学部の一年生や、互いに話しかける勇気が出せずにいた、口腔生命福祉学

科の学生とも交流することの出来る、貴重な場所です。

歯学部先輩方からは、部活に関するだけでなく、学校生活へのアドバイスもたくさんいただくことができ、とても有り難く感じております。しかし、どの先輩からも、「今が一番楽しいから、思う存分遊んでおきな」というアドバイスをいただきます。また、部活や試合の合間を縫っては勉強をなさっている先輩の姿を今まで何度も目にしました。その度に、これから先への不安を抱くと同時に、今年1年を思う存分楽しもうという決意をもさせられます。2年次以降も先輩方のように、勉強、部活、遊びとどれにも一生懸命取り組んでいけたらいいなと思っております。

ここ新潟大学歯学部で、まだ出会ってから3ヶ月ちょっとであるのが信じられないほど、愛おしい仲間たちと、これから6年間多くの困難や幸せを共に過ごしていくのは、とても楽しみです。離れていても、いつも支えてくれている家族に感謝の気持ちを忘れずに、これから6年間充実した学生生活を送りたいと思います。

## 入学者のことば

### 口腔生命福祉学科1年 加藤 舞

新潟大学に入学し、早くも3か月が経ちました。この3か月は本当にあっという間でした。合格したときの嬉しさや、大学生活への期待とともに入学式をむかえたことを今でも覚えています。入学したばかりのころは、やることひとつひとつが高校の時とは違い、不安もありました。初めての履修登録や授業などでは戸惑いもありました。しかし今では、新しい友達もでき、大学生活にも慣れて、充実した楽しい日々を送っています。

4月からは、毎週金曜日に旭町キャンパスでの早期臨床実習が始まりました。早期臨床実習では、患者付き添い実習、患者役実習、治療見学実習を行っています。実際に病院という現場に立つことで、患者さん目線で接することは大切だと改めて感じました。患者さんからお礼を言われたとき、自分は歯科衛生士として見られているのだと

感じ、嬉しさとともに少しずつ意識も高まってきました。実習では、ユニフォームや白衣を着て病院に出ることで、将来自分が医療人として働くという実感がわきました。歯科に関する知識はほとんどなかったのですが、先生方の話を聞いたり、6年生や患者さんと実際に接したりすることで意欲がさらにわいてきました。実習を通して、理想の歯科衛生士に近づけた気がします。早期臨床実習はとても貴重な経験だと思いました。来年からはより大変になっていくと思いますが、向上心を持ち多くの経験をしていきたいです。

大学生活では、部活や歯学部での行事などとても充実しています。部活では、先輩方がみんな優しく、楽しく活動しています。歯学部の部活だからこそ、専門的な知識を得ることができます。歯学部の運動会では、いつも以上にみんなと協力し、仲が深まりました。歯学部は、歯学科と口腔生命福祉学科を合わせて約60人と人数が少ないので、そのぶん気持ちをひとつにみんなで頑張れると感じました。

1年生の間は、たくさん時間があると思うので、いろいろなことに挑戦していきたいです。

入学してからまだ3か月しか経っていないので、行うことがすべて新鮮です。この初心の気持ちを忘れずにこれからも頑張りたいです。これからは楽しいことだけではなく、つらいことや苦しいこともあると思います。ですが、理想の歯科衛生士になれるように日々精進していきたいです。1日1日を大切にさまざまな経験を積み、成長していけるようこれから4年間、仲間と協力し、努力していこうと思います。

## 入学者のことば

### 口腔生命福祉学科1年 室橋波菜

新潟大学に晴れて入学し、早いことに3か月がたちました。わたしは、新潟出身なので慣れない環境での新生活とはなりませんでしたが、新しく始まる生活に少しわくわくしていました。そして今では、期待と不安を胸に出席した入学式がずっと昔のように思えます。最初のころは、90分間の

授業と課題はしっかりとこなせるか、履修登録はちゃんとできるか、新しい友達はできるかなど、たくさんの不安がありました。しかし、今では多くの友達ができ、大学生活にもすっかりと慣れ、毎日楽しく過ごすことができます。

入学式が終わり、すぐに新入生研修が行われました。まだ話したことのない人が多いなかで、自己紹介やグループ討議、お昼ご飯の時間を通じて、たくさんの人と話すことができ、仲良くなることができました。今年から宿泊での研修ではなくなってしまい少し残念でしたが、学科関係なく学部内で交流することができ、いい機会になったと思います。歯学部は61人と少ない人数ではありますが、協力し合いお互いにいい刺激を与えあえるような関係になれたらいいなと思いました。

わたしたちは毎週金曜日に、病院で早期臨床実習を行っています。はじめて病院内をまわったときに多くの患者さんを見て、「自分は患者さんを案内することは本当にできるのだろうか。」と不安になりました。初めての患者付き添い実習は緊張しましたが、最後にお見送りをした時には患者さんに「ありがとう。」と言ってもらい、とてもうれしかったです。患者さんと実際に近くで触れ合うことができ、とてもいい経験になりました。患者役実習では、6年生の先輩に自分の歯をみてもらい、歯磨き指導などをしていただきました。自分が患者側になることで、患者さんは普段どのような気持ちで施術をうけているか体感することができました。また、見学実習では患者さんが実際に治療を受けているところを間近で見ることができ、歯科医師の方や歯科衛生士の方がどのように接しているのかを学びました。病院内では、子供から高齢の方まで様々な患者さんがいます。そのなかで、コミュニケーションが大切だということを改めて感じました。歯科に関する技術は今後学んでいきますが、コミュニケーション能力は普段の生活からでも十分に身につけることができると思います。普段の学校生活の中で積極的にたくさんの人とコミュニケーションをとっていきたいです。

これから4年間、自分の理想の歯科衛生士になれるよう多くのことを学び、大学生のうちにしか

できないことをたくさん経験したいと思います。時にはつらいこともあると思いますが、仲間と助け合い、切磋琢磨し互いの将来の実現に向かい頑張っていきたいです。

## 入学者のことば

小児歯科学分野大学院1年 清川 裕 貴

時期は春も過ぎ、近々暑さも増している爽風の中、苦虫をかみつぶしたような顔で日々の大学院生活を過ごしております。

私は本年度より小児歯科学分野に入局させていただきまして、先生方からの優しくも厳しい叱咤を受けながらも臨床と研究に向き合っています。小児歯科はやや特殊な分野であり、患児を治療するのはもちろんのこと、患児と親の2方向へ教育を施していかなければならない点に困惑と困難を覚えています。昨年度は新潟大学の歯科総合診療部で1年間研修させていただき、どちらかという高齢者の治療を勉強させていただきました。それに比較して小児は成長・発育という将来に向けての段階をもっており、口腔衛生状態や食習慣の管理を行う必要があります。現状を改善するのではなく、将来の伸びしろを高めるお手伝いをさせていただくことが小児歯科医の仕事だと思われま。私がこれまで学んだことはほとんど通用せず、全くの異国の地を訪問してしまったかのような心情ですが、このような新参者に対して医局の先生方は暖かく迎え入れてくださりました。

また小児だけでなく障がい者への対応も学ぶ必要があります。障がい者の歯科治療に関しても全くの初心者であり、どのような対応が必要なのか検討がつかないながらも先生方の診療を見学することで、さまざまに学び考えさせられます。患者さん一人一人の強烈な個性を味わいながら、それに寄り添った治療をしていく風景を見ると、静謐に感動を覚えている自分がいることに気づいてまいります。

さて話変わって研究について話題を移らせていただきますと、私は齋藤一誠准教授の下で「乳歯歯髄細胞由来iPS細胞からの人工的幹細胞の樹

立」をテーマとした研究を行っています。少しミーハー気味に再生医療の領域へ踏み込んでしまいましたが、やはり細胞を弄ることは面白く感じます。細胞は素直なようでわがままであり、こちらが少しでも手違いをするとあっという間に駄目になり、手塩にかけたとしても望んだ結果が出るとは限らない、どことなく小児と通じるものがあるように感じてしまうところです。iPS細胞を扱って間もないですが、これから未永く仲良くさせてもらいたいという淡い希望とデータを出さなければならぬ圧迫感のなか、様々に精進していこうと思います。

大学院に入ってから数か月程度のなかで感じたことは、やっぱり大変だということです。学生や研修医のころにくらべ、臨床も研究も雑務もあれもこれも、で毎日がてんやわんやです。充実感と疲労感の狭間を行ったり来たりして、ふと訳が分からなくなってしまうこともあります。何とか頑張っていこうと思います。

最後となりますが、早崎治明教授、齋藤一誠准教授、医局の先生方、私なぞを入局させていただき誠にありがとうございます。これから幾度もご迷惑をおかけすると思いますが、ご指導のほど何卒よろしくお願いいたします。

## 入学者のことば

摂食嚥下リハビリテーション学分野大学院1年  
日野 遥 香



2019年4月に本学大学院医歯学総合研究科に入学しました日野遥香です。私は、日本大学歯学部卒業後に東北大学・日本大学での歯科臨床研修、臨床研鑽を経て、今年の1月に地元である新潟に戻り、摂食嚥下リハビリテーション学分野にお世話になることとしました。

私が摂食嚥下の分野に興味を持ち始めたのは研修医の時でした。高齢の患者さんが車椅子で来院された際に移乗や移動等の対応が上手くできずに

いたところ、さらにこの患者さんが摂食嚥下障害であることから経口摂取をしていないことを聞かされてショックを受けました。大学在学中にも摂食嚥下障害の臨床を座学で学ぶことはありましたが、実際の患者さんを目の前にして何もできなかった自分をはがゆく思うとともに、これらの患者さんに対して歯科医療に何ができるのかを真剣に学んでみたいと思うようになったことがきっかけで摂食嚥下リハビリテーション学分野の門をたたきました。

摂食嚥下障害は様々な疾患に伴って生じることから、全身疾患を抱えた患者さんの状態を適切に把握して多職種で取り組むこと、患者さんの状況を把握したうえで時に共感して寄り添う、もしくは厳しく対するなどの工夫が必要です。入学してから3か月が経ちましたが、臨床も研究も駆け出しで自らの知識と経験不足を感じる毎日です。

研究では、摂食嚥下リハビリテーション学分野が培ってきた動物実験の流れを受けて、慢性動物を用いた摂食運動時の神経筋記録の手技を学びはじめました。麻酔の導入から手術、記録、解析と、実験を進める上で分からないことばかりですが、今は一つ一つの実験手技を確実にこなすように努力していきたいと思っています。まだ臨床と研究において医局の先生方にご迷惑とご心配をかけているばかりですが、必死に学びたいと思いますのでご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

## 入学者のことば

口腔生命福祉学専攻博士前期課程1年  
古田彩佳

この度、口腔生命福祉学専攻博士前期課程に入学しました古田彩佳です。3月に口腔生命福祉学科を卒業し、その10日後にはまた同じ朱鷺メッセでの入学式に出席させていただき、改めて気持ちを引き締め4か月が経ちました。

現在私は、歯科医院において歯科衛生士として勤務しています。忙しい歯科医院での毎日、学生時代の生活とはまるで違う環境に戸惑いながら、目まぐるしい日々を送っています。毎日自分

自身の知識の未熟さや物足りない技術力を実感しつつ、さまざまな患者様と接し多くのことを学んでいる日々です。

私たちの学年は、5人全て口腔生命福祉学科からの同期です。皆社会人大学院生となり、それぞれの勤務の都合に合わせて講義などで顔を合わせ、近況報告をしたり食事に行ったりすることが、ホッと出来る瞬間でもあります。そして、福祉の講義では普段歯科衛生士として働いているだけに、ふと忘れかけていた社会福祉士の資格も持っていることを改めて実感する機会となっています。せっかくのダブルライセンスを活かしていくためにも、大学院では口腔を中心とした保健・医療・福祉に関してより深く包括的に学び、全ての人々の口腔機能の維持向上の推進に努め、地域社会における健康水準とQOLの向上に寄与することを目指していきたいと思っています。研究への取り組みはまだ始まったばかりで手探り状態の私ですが、先生からご指導、ご助言をいただきながら今自分に出来ることを精一杯こなし、有意義な社会人大学院生生活を送れるよう頑張りたいと思います。

## 入学者のことば

口腔生命福祉学専攻博士後期課程1年  
石黒明日香

わたしは2017年に口腔生命福祉学科を卒業し、博士前期課程に入学しました。そしてこの春、前期課程を修了し、後期課程に進学しました。前期課程入学から修了までを振り返ってみますと、社会人として仕事をもちながら、さらに遠方への引っ越しも重なりましたが、それでも無事後期課程に進学できたのは先生方の熱心なご指導のおかげだと感じています。とても感謝しております。

この度、歯学部ニュースに「入学者のことば」を寄せるにあたり、前期課程での経験、近況、そして後期課程での抱負を述べたいと思います。

前期課程では、研究に関するものごとすべてが初めての体験でした。研究計画書の作成から、データの収集、分析と、わからないことの連続の

日々でしたが、その都度先生から助言をいただきながら研究を進めていきました。一日中院生室にこもって統計ソフトの使い方に悪戦苦闘したり、何度もプレゼン用のスライドやポスターを修正したり、「大学院生って大変だなあ」と思っていたのですが、いま少し時間をおいて振り返ってみますと、日々新しいことを勉強できてとても充実していたと思います。また、初めて訪れる土地で慣れない言葉で学会発表を行い、緊張したことを覚えていますが、このような機会に恵まれてよい刺激を受けることができ、その後の励みにもなっています。こうした前期課程でのさまざまな経験が、今後後期課程で研究に取り組むにあたって、よい道標になってくれるのではないかと思います。

さて話は変わって近況ですが、わたしは現在新潟を遠く離れ、沖縄に暮らしながら、社会福祉士として市役所にて障がい福祉分野の相談援助業務

に従事しています。気候や食べ物やことばの違いに戸惑いつつも、勤務先ではよい先輩方に囲まれて楽しく、ときにめまぐるしく日々を過ごしています。窓口や電話での相談受付、各種福祉サービス・制度の説明や申請手続きのための支援、病院への受診同行や、緊急時の対応など、業務内容は日によりけりです。沖縄というと、とてもんびりゆったりした南国らしい生活を想像されることが多いのですが、仕事をしているとそういうわけにもいかず、雪にすっぽり覆われた静かな新潟の景色が懐かしくなることもあります。

とはいえ、当分は沖縄で仕事の経験を積みながら、後期課程の3年間も悔いなく過ごせるように努力していきたいと思います。研究テーマはまだ固まっておらず、これから準備していくこととなりますが、3年後には大学院生活の集大成として自ら納得できる結果を出すことができるように取り組んでいきたいと思っています。

